

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

早植え水稻のいもち病の発生状況（技術情報第 7号）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、防除指導の参考としてご活用下さい。

記

本年は早植え水稻（5月植え）における葉いもちの発生が多く、穂いもちに進展する可能性があります。ほ場の発生状況を確認し、発生が多い場合は防除しましょう。

1 発生状況

- ア 8月1日に実施した調査では、阿蘇地域の早植え水稻で葉いもちの発病株率は59.3%と、8月の巡回調査における阿蘇地域の平年値（発病株率9.3%）より高かった（表1）。
- イ 早期・早植え水稻における7月の巡回調査では、葉いもちの発病株率13.8%（平年7.4%）で、平年比やや多の発生であったが、発生が見られないほ場が全体の7割程度あり、発生に偏りが見られた（図1）。
- ウ 矢部試験地（山都町）の無防除田における7月の葉いもち病斑数は2.3個/株（昨年28.9個/株、一昨年0.3個/株）で、昨年より少なく、一昨年より多かった。
- エ 一部の普及・振興課では、中山間地の葉いもち常発地を中心に多発ほ場を確認している。
- オ 早植え水稻は、6月～7月の日照不足（平年の60%程度）の影響に加え、阿蘇乙姫、南小国で7月中旬以降にBLASTAMによる感染好適条件となった日があり、本病が発生しやすい条件となっていた。
- カ 8月3日に発表された向こう1ヶ月の予報は、気温が平年より高く、降水量は少ない予想である。平坦地では感染に好適な条件とはなりにくい、山間・高冷地では引き続き注意を要する。

2 防除対策

- ア 穂いもちは発生後の防除が困難であるため、葉いもちの発生状況を確認し発生が多い場合は、予防防除を行う。
- イ 粉剤や水和剤は、穂ばらみ期～穂揃い期に散布する。
- ウ 粒剤は出穂前に散布するが、薬剤の種類によって使用時期が異なるので、確認して使用する。

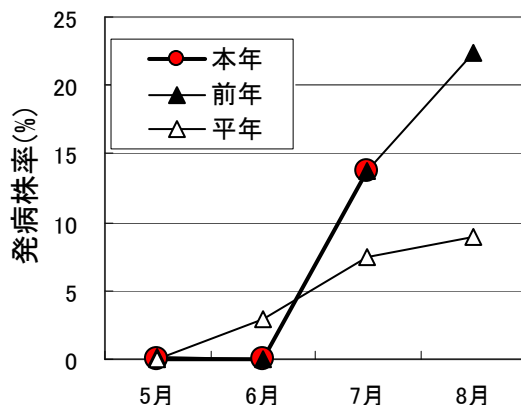


図1 早期・早植水稻における葉いもち発病株率の推移

表1 いもち病調査結果一覧

平成24年8月1日実施

作型	調査地点名	発病株率	発病度
早 植 え	阿蘇市 1	84.0	21.0
	〃 2	46.0	11.5
	〃 3	48.0	12.0
	〃 4	86.0	27.0
	南阿蘇村 1	20.0	5.0
	〃 2	4.0	1.0
	南小国町 1	100.0	50.0
	〃 2	86.0	26.0
	平均値	59.3	19.2
	巡回調査8月 阿蘇の平年値		9.3
普 通 期	熊本市 1	0.0	0.0
	〃 2	0.0	0.0
	〃 3	0.0	0.0
	〃 4	0.0	0.0
	〃 5	16.0	4.0
	〃 6	12.0	3.0
	宇城市 1	4.0	1.0
	〃 2	2.0	0.5
	玉名市 1	0.0	0.0
	〃 2	0.0	0.0
	〃 3	0.0	0.0
	〃 4	0.0	0.0
	山鹿市 1	0.0	0.0
	〃 2	0.0	0.0
	〃 3	0.0	0.0
	〃 4	0.0	0.0
	菊鹿町 1	0.0	0.0
	〃 2	2.0	0.5
	菊池市 1	2.0	0.5
	〃 2	0.0	0.0
	大津町 1	0.0	0.0
	〃 2	0.0	0.0
	御船町 1	0.0	0.0
	〃 2	2.0	0.5
	嘉島町 1	4.0	1.0
	〃 2	0.0	0.0
	〃 3	4.0	1.0
	〃 4	0.0	0.0
	甲佐町 1	4.0	1.0
	〃 2	0.0	0.0
	山都町 1	0.0	0.0
	〃 2	4.0	1.0
	八代市 1	0.0	0.0
	〃 2	0.0	0.0
	〃 3	18.0	4.5
	〃 4	10.0	2.5
	氷川町 1	0.0	0.0
	〃 2	0.0	0.0
	芦北町 1	2.0	0.5
	〃 2	0.0	0.0
〃 3	0.0	0.0	
〃 4	0.0	0.0	
平均値	2.0	0.5	

問い合わせ先
 熊本県病害虫防除所
 (生産環境研究所)
 担当:清永、山口
 TEL 096-248-6490